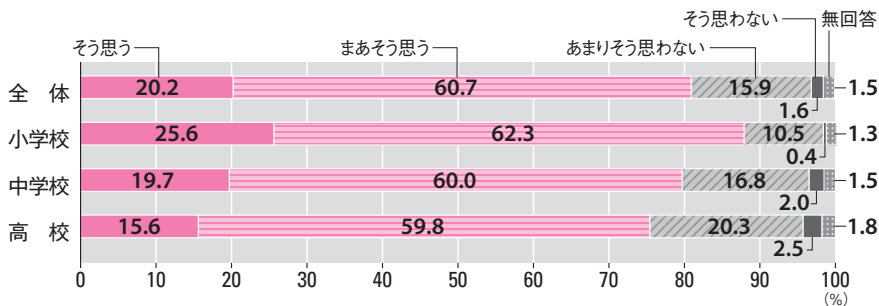


# 「思考力・判断力・表現力」の評価と指導の実態

新課程では、「生きる力」の育成として「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」などが目指されている。思考力、判断力のような「見取りにくい」力を学校現場ではどのように指導、評価しているのだろうか。教師の評価に対する意識とその評価の実態を見てみよう。

## 1 「一人ひとりの状況に目を向けるようになる」と8割の中学校教師が回答

Q.目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価によって、児童生徒一人ひとりの状況に目を向けるようになると思いますか

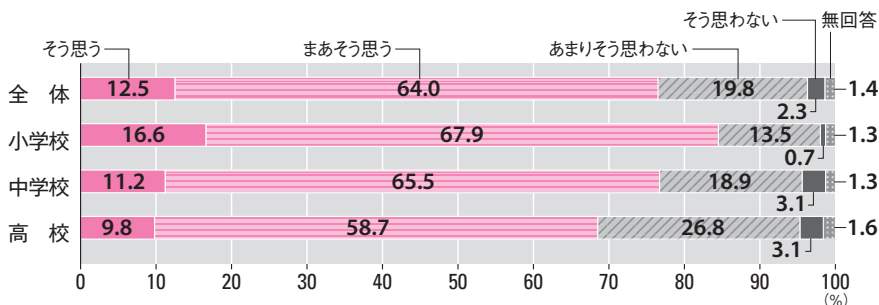


注1) サンプル数は、全体4,978人、小学校1,659人、中学校1,628人、高校1,691人  
出典／文部科学省「学習指導と学習評価に対する意識調査」（平成22年）

絶対評価や観点別評価の実践により「一人ひとりの状況に目を向けるようになる」と、肯定的な回答をした教師は全体で8割。学校段階別に見ると、小学校で最も高く（87.9%）、中学校（79.7%）、高校（75.4%）と学校段階が進むにつれてポイントが減少しているが、全体的には絶対評価や観点別評価の導入について肯定的な態度がうかがえる。

## 2 授業目標の明確化や多角的な学力の育成につながると感じている中学校教師は7割以上

Q.目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価によって、授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができますか



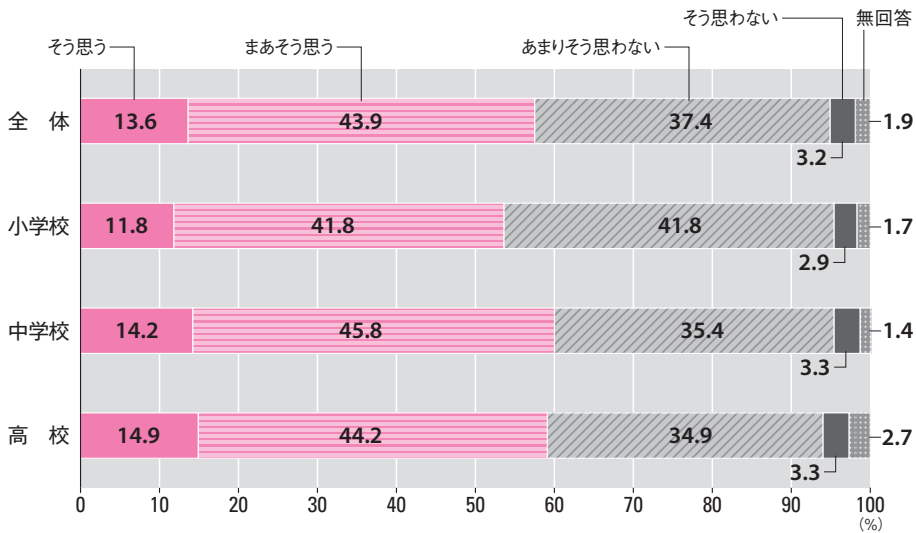
注1) サンプル数は、全体4,978人、小学校1,659人、中学校1,628人、高校1,691人  
出典／文部科学省「学習指導と学習評価に対する意識調査」（平成22年）

絶対評価や観点別評価の実践により「授業の目標が明確になり、学力などを多角的に育成することができる」と回答した教師は、全体で76.5%。学校段階別に見ると、小学校が84.5%であるのに対し、中学校では76.7%、高校では68.5%となっている。背景として、中学、高校と上がるにつれて、相対的な学力の把握や評価の重要性が高くなることが影響しているのかもしれない。

# 「思考力・判断力・表現力」を評価し、育む

## 3 教職員間の共通理解を図ることに苦勞

Q. 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や観点別学習状況の評価について、「評価規準や評価結果の妥当性について担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する」と感じますか

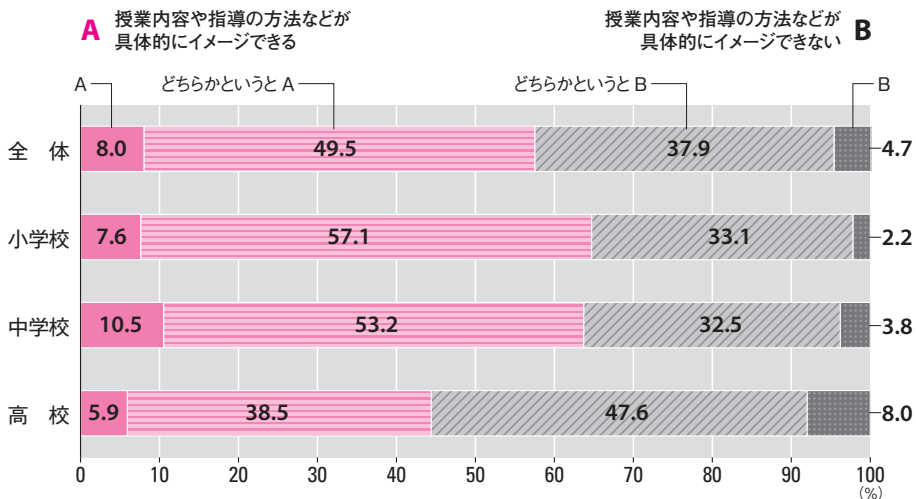


注1) サンプル数は、全体4,978人、小学校1,659人、中学校1,628人、高校1,691人  
出典／文部科学省「学習指導と学習評価に対する意識調査」（平成22年）

絶対評価や観点別評価の実践により「評価規準や評価結果の妥当性について担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する」と回答した教師は、全体で57.5%。学校段階別に見たところ、小学校が53.6%とやや低く、中学校（60.0%）、高校（59.1%）は共に6割となっている。中学校や高校では、教科の専門性による壁などから教職員間の共通理解の構築に、より苦勞する様子が見えがえる。

## 4 思考力、判断力、表現力を育む授業や指導方法が具体的にイメージできる中学校教師は6割

Q. 新課程で示されている、思考力、判断力、表現力を育むための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」について、AとBのうち、どちらが実際に行っている指導や実感に近いですか



注1) サンプル数は、全体4,978人、小学校1,659人、中学校1,628人、高校1,691人  
出典／文部科学省「学習指導と学習評価に対する意識調査」（平成22年）

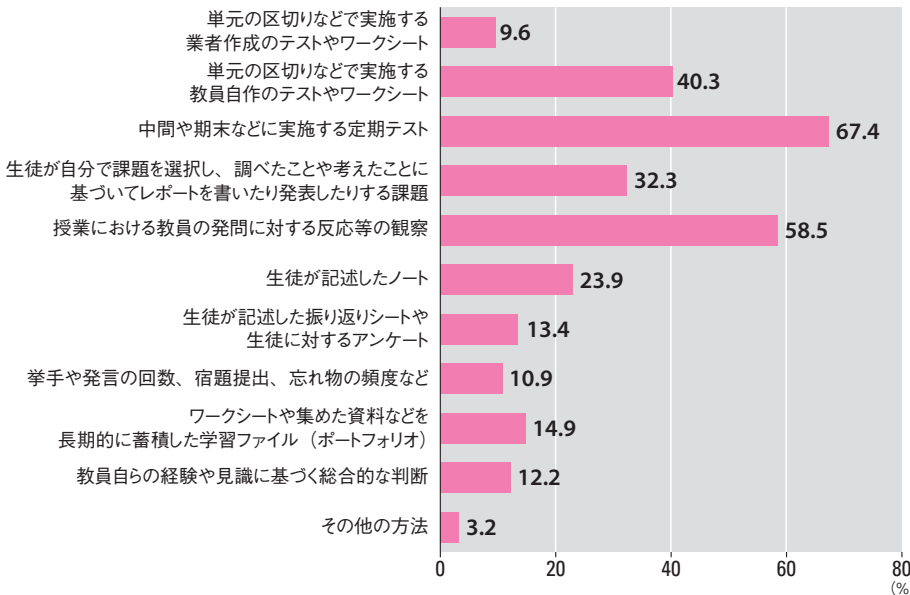
思考力、判断力、表現力を育むための授業内容や指導の方法について具体的にイメージできるかどうかを尋ねたところ、小・中学校では約65%、高校では44.4%の教師がイメージできると回答した。

「具体的」のイメージが教師によって異なる可能性や、思考や判断の主体が生徒側にあることを考えると教師の回答だけで単純に比較することはできないが、少なくとも、教師がイメージする思考力、判断力、表現力を育むための授業内容や指導の方法には、かなりばらつきがあることがうかがえる。

## 5

# 思考力、判断力、表現力などの評価は「定期テスト」が約7割、「発問に対する反応等の観察」が約6割

Q. 生徒の思考力、判断力、表現力等の評価方法（回答：中学校教師）



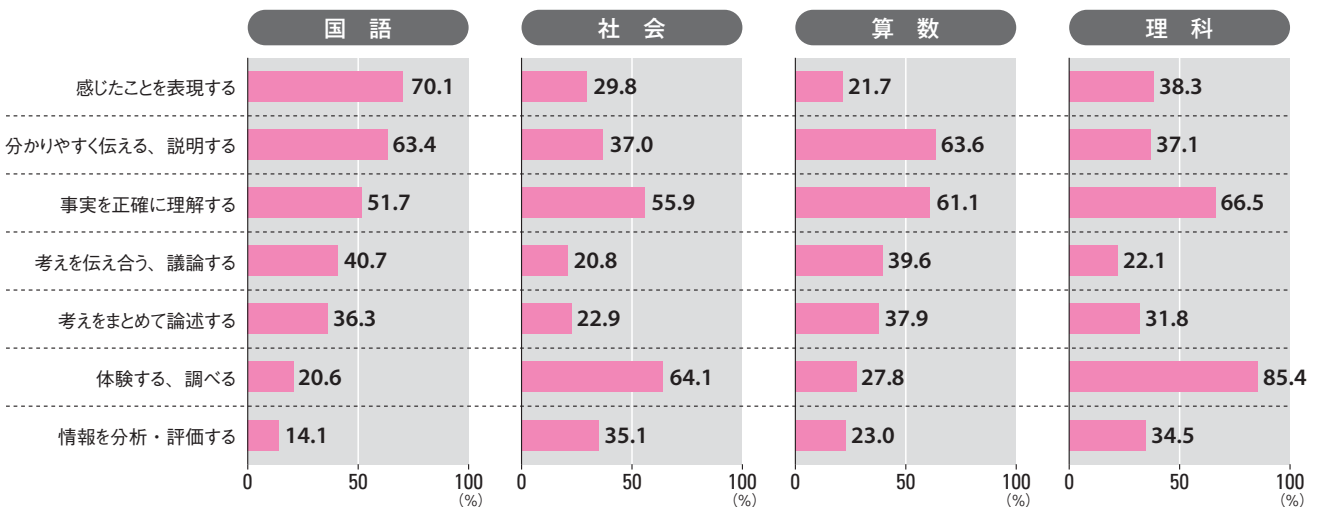
注1) 当てはまるものを3つまで選択  
出典／文部科学省「学習指導と学習評価に対する意識調査」（平成 22 年）

思考力、判断力、表現力等の評価方法を尋ねた調査結果を見ると、「中間や期末などに実施する定期テスト」と回答した教師が約7割、「授業における教員の発問に対する反応等の観察」と回答した教師が約6割、「単元の区切りなどで実施する教員自作のテストやワークシート」と回答した教師が約4割であった。教師は定期考査や小テスト、ワークシートなどを活用した記述物や授業中の発問の反応から思考力、判断力、表現力等の評価を主に行っていることが分かる。

## 6

# どの教科も「考えを伝え合う」「考えをまとめて論述する」授業を心掛けている

Q. 2011年度の各教科の授業について、次のことはどれくらい当てはまりますか（回答：小学校教師）



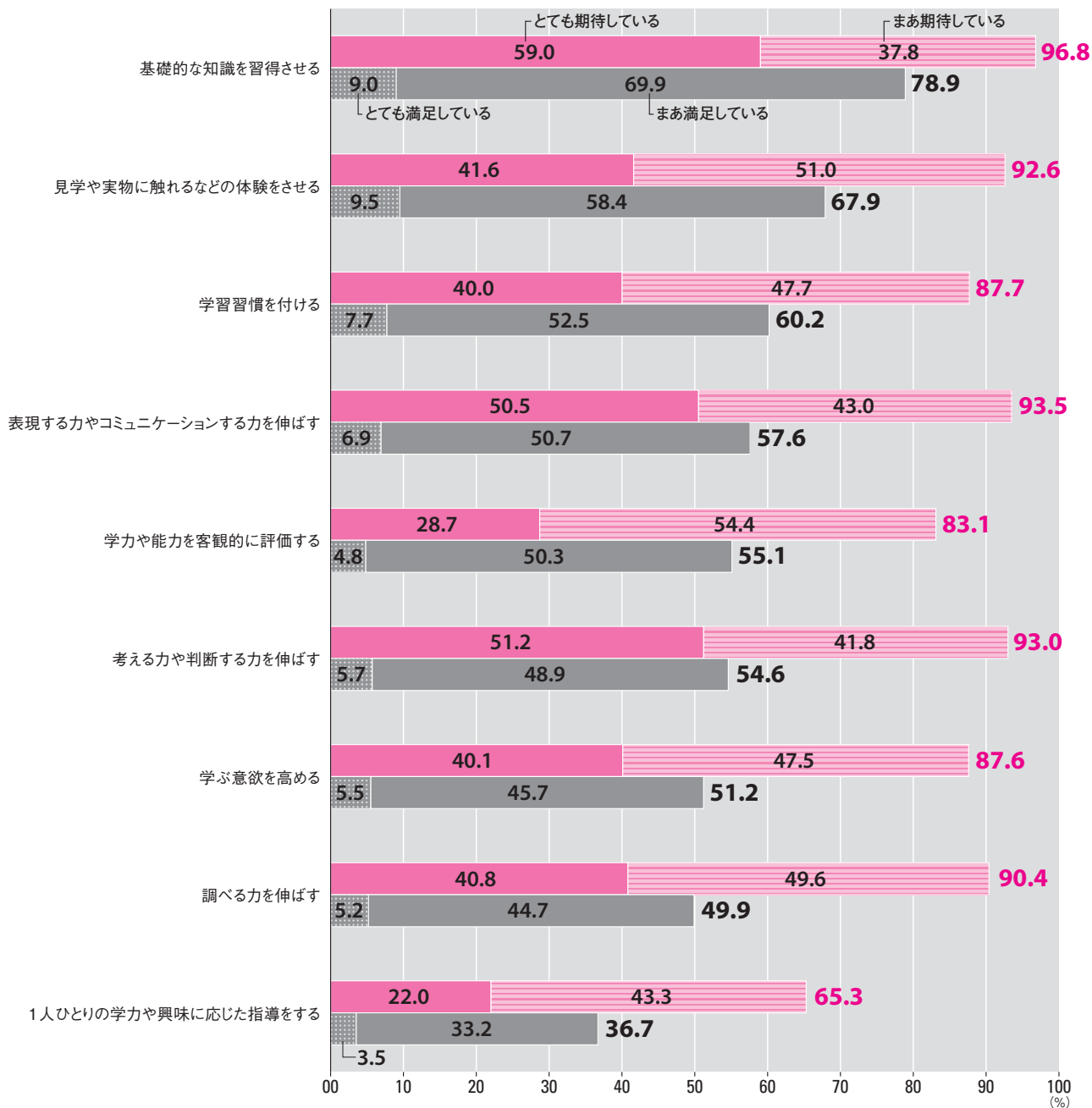
注1) 数値は「多くするように特に心掛けている」の％  
出典／Benesse教育研究開発センター「小学校 新教育課程に関する調査」（2011）

2011年度に新課程が全面実施となった小学校の学習指導の状況に関する調査結果を見ると、思考力、判断力、表現力の育成にかかわる「事実を正確に理解する」「考えを伝え合う、議論する」「考えをまとめて論述する」といった心掛けは、教科にかかわらず見られることが分かる。

# 「思考力・判断力・表現力」を評価し、育む

## 7 「考える力や判断する力を伸ばす」指導に対する小学生の保護者の期待は9割を超える一方、満足度は6割を切る

Q. お子さまが通われている小学校にどのような教育や指導などを期待していますか。2011年度1学期の学校の教育や指導などにどれくらい満足していますか（回答：小学生保護者）



出典／ Benesse教育研究開発センター「小学校 新教育課程に関する調査」(2011)

基礎的な知識の習得や体験をさせる指導についての保護者の満足度は高い。その一方で、考える力や判断する力、調べる力などへの満足度は6割を切っている。小学校の調査結果に見られるように、中学校でも考える力や判断する力、調べる力などの指導が保護者から期待される可能性がある。